

力合わせ経済再生、環境保全を

京都
丹後・与謝経済懇談会

地域の宝光らせる後押しを 大門さん報告

大門実紀史参院議員は2月25日、京都府宮津市で行われた「丹後・与謝地域の経済再生を語りあうつどい」（党丹後・与謝両地区委員会の共催）で報告。再生の方向は「地域の宝を光らせる後押しを政治が行うこと。それをさせるのが住民の運動だ」とのべました。

京都北部の3地域（舞鶴、福知山・綾部、丹後・与謝）の「つどい」の最後に行われたもので、大門さんは昨年来、2回にわたって丹後・与謝入りし、16の団体・個人と懇談。これをもとに報告しました。再生のキーワードは「市民主体の再生プラン」

「創生でなく再生」「福祉のまちづくり」の3つであり、現場にこそ知恵があると強調しました。

つどいでは党地区委員会から基調報告。「丹後リゾート」などの大型開発、「平成の大合併」、国の「地方創生」が地域の疲弊、住民負担増、サービス切り捨てをもたらししていることを指摘。一方で与謝野町での暮らし・営業を守る取り組みなど立場を超えた運動が行われていることが紹介され、再生の方向として①地域の宝を光らせる後押しが基本②行政が住民自治を支える方向に動く③子ども・若者が輝く地域にーが示されました。丹後機業、福祉、農業、地域循環型経済についてパネリストが発言、活発に討論しました。



和歌山
海南・紀ノ川・紀美野

超大型風力発電 環境破壊・健康被害の危険



堀内さん・市田議員秘書・地方議員ら調査

和歌山県の海南市、紀の川市、紀美野町、有田川町にまたがる大規模な風力発電所計画について党和歌山県議団、関係市町議団は27日、予定地の調査と住民らとの懇談を実施。堀内照文前衆院議員、佐々木勝吉・市田参院議員（環境委員）秘書、雑賀光夫、奥村規子両県議らが参加しました。

計画は、外資系の2事業者が高さ150mの風車43基を設置、最大14万4000キロワットの発電を予定しています。これには紀美野町内の64地区の区長でつくる区長連

絡協議会が23日の臨時会合で森林法にもとづく林地開発許可をしないよう求める署名を知事に提出することを決めています。

一行は、寺本光嘉・紀美野町長を訪問。同町長は「豊かな自然を生かし、夢と活気のある街づくりを進めている」とし、「余分な開発でなく必要なインフラ整備を進めたい」と話しました。若林豊区長連協会長の案内で行った予定地調査では地質の専門家が説明。「地滑りが起きやすい地質であり、頻りに崩落が起きている。新たな負荷をかけるような開発はすべきでない」「保護すべき自然が破壊される」と計画の危険性を詳しく語りました。懇談会では風車が設置されている地域での健康被害の実態も含め、低周波や騒音被害への危惧、健康調査の必要性が語られました。

堀内前衆院議員は「本来歓迎されるべき自然エネルギー開発が批判されるのは利益目的に使われているから」とし、「住民合意のない計画は許されない」とのべました。佐々木秘書は国の機関への要請を提起しました。

18年近畿ブロック事務所ニュース

Tel 06(6975)9111 Fax 06(6975)9115

No. 11 (2018.2.28)